2022年度 第3四半期 決算説明会資料

JT Group CFO
加藤 信也

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。
※用語の定義については、スライド19以降に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

（1） 喫煙に関する健康上の懸念の増大

（2） たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等

（3） 国内外の訴訟の動向

（4） たばこ事業以外へ多角化する当社の能力

（5） 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力

（6） 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少

（7） 買収やビジネスの多角化に伴う影響

（8） 国内外の経済状況

（9） 為替変動及び原材料費の変動

（10）自然災害及び不測の事態等

© Copyright JT 2022

2022年度 第3四半期実績

2022年度 第3四半期全社実績：KPIは前年を凌駕

(億円)	2022年 1-9月	前年同期比
財務報告ベース		
売上収益	**20,085**	+13.7%
調整後営業利益	**6,378**	+17.5%
営業利益	**5,793**	+20.5%
四半期利益	**4,038**	+19.2%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

為替一定ベースcore revenue：前年同期比 ＋4.1%
為替一定ベース調整後営業利益：前年同期比 ＋6.5%

- 引き続きたばこ事業におけるプライシング効果が牽引

売上収益・調整後営業利益（財務報告ベース）

- たばこ事業のビジネスモメンタムに加え、大幅な円安効果も後押し
- 医薬事業、加工食品事業も増収

営業利益

- 調整後営業利益の増益に加え、前年同期に発生した一時費用（葉たばこ耕作の面積調整、たばこ事業運営体制強化施策に係る費用）の剥落により、増益

四半期利益

- 金融費用の増加があるも、営業利益の増加が上回り増益

© Copyright JT 2022

たばこ事業：シェア伸張・底堅い需要に牽引され、堅調な数量実績

（億本）	2022年 1-9月	前年同期比
総販売数量	**4,020**	▲0.5%
Combustibles 販売数量	**3,960**	▲0.6%
RRP販売数量	**60**	+10.7%

総販売数量

（+）EMAクラスターにおけるCombustiblesの力強い数量モメンタム

（+）RRP販売数量の継続的な成長

（–）英国における総需要の減少

Combustibles

（+）60以上の市場で販売数量が前年同期比増加

（+）主要市場の大半でシェアが伸張：イタリア、フィリピン、スペイン、台湾、トルコ

（±）渡航制限の緩和影響

（–）日本、フィリピン、英国における総需要減少（加えて、日本、英国は低価格帯での活発な競争）

RRP

（+）日本におけるHTS*カテゴリ内シェア伸張

*heated tobacco sticks

© Copyright JT 2022

たばこ事業：プライシング効果に牽引され、増収・増益

（億円）	2022年 1-9月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	**17,607**	+14.9%
（同 為替一定）	**15,918**	+3.9%
調整後営業利益	**6,534**	+16.1%
（同 為替一定）	**5,941**	+5.5%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。
為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

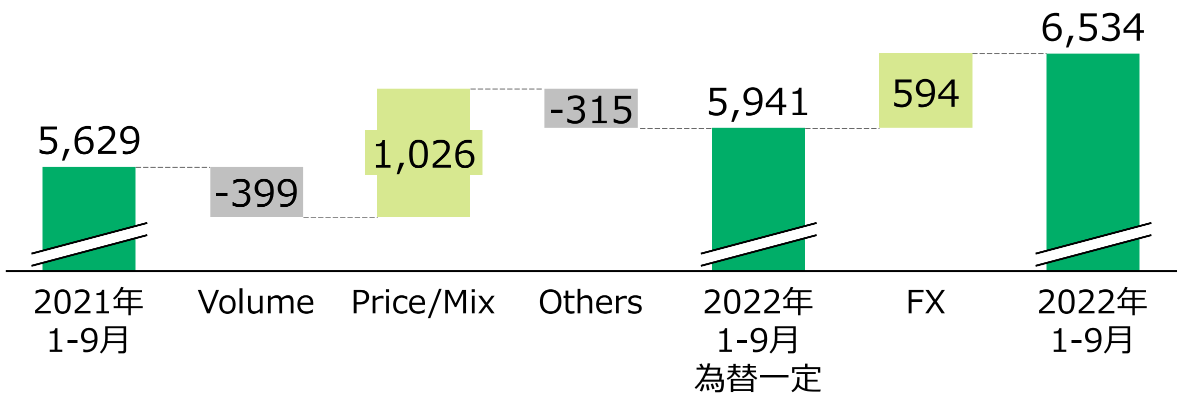
自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益

- 自社たばこ製品売上収益：力強いプライシング効果により増収
- 調整後営業利益：資源・資材価格高騰によるサプライチェーンコストの上昇影響をプライシング効果が上回り、増益

為替影響

- 円安の進行を受け、前年同期比で大幅な増収・増益

調整後営業利益　増減要因（億円）



© Copyright JT 2022

たばこ事業：クラスター・主要市場サマリー

Asia

日本
- Camel Craftが牽引し、Combustiblesシェアは前期より伸張
- 10月の増税に伴う定価改定（RRPのみ）の影響は限定的
- プライシング効果はあるものの、自社たばこ製品売上収益は前年同期比減少

フィリピン
- 増税値上げの影響を受け、総需要・総販売数量は減少
- Camel、Mightyが牽引しシェアは伸張
- プライシング効果により、自社たばこ製品売上収益は前年同期比増加

台湾
- 堅調な総需要
- MEVIUSが牽引しシェアは増加、総販売数量は総需要のトレンドを上回る増加

WE

イタリア
- ネガティブな在庫影響を除くと総販売数量は増加
- Winstonが牽引し、シェアが伸張

スペイン
- 渡航制限の緩和に伴い、総需要が引き続き増加
- Camelが牽引しシェアが伸張、総販売数量が増加
- プライシング効果により、自社たばこ製品売上収益は前年同期比増加

英国
- 渡航制限の緩和・値上げ影響を受け、引き続き総需要・総販売数量が減少
- Benson & Hedges、Sterlingが牽引し、シェアは前期より伸張し競合との差を広げる

EMA

ルーマニア
- 総需要は堅調
- 低価格帯における競争が活発化する中でもシェアは堅調
- プライシング効果により、自社たばこ製品売上収益は前年同期比増加

ロシア
- 増税値上げの影響を受け、Combustibles総需要が減少
- トータルシェアは安定的に推移
- プライシング効果により、自社たばこ製品売上収益は前年同期比増加

トルコ
- 増税・インフレに伴う値上げ影響により、第3四半期において総需要・販売数量が減少
- Winstonが牽引し、シェアは伸張
- プライシング効果により、自社たばこ製品売上収益は前年同期比増加

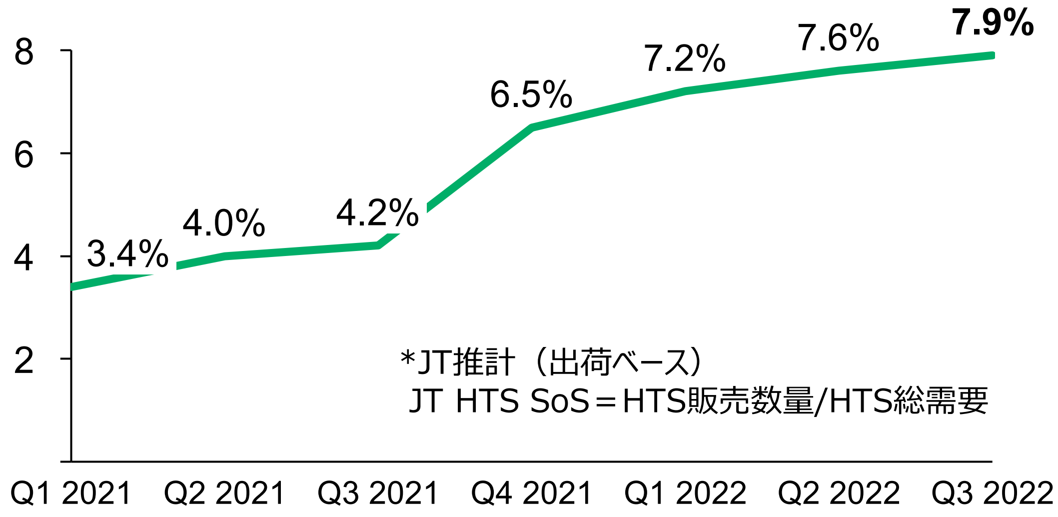
© Copyright JT 2022

たばこ事業：Ploom Xの進捗

日本

- 積極的なプロモーション活動により、HTSカテゴリ内シェアの伸張が継続
- 2022年10月の増税に伴う定価改定後も、堅調なシェアの推移を確認

日本市場：HTSカテゴリにおけるJTシェア*の推移



© Copyright JT 2022

本スライドは、JTグループの事業活動を説明するためのものであり、当社グループの製品について、消費者への販売促進もしくは使用を促す目的のものではありません。

たばこ事業：Ploom X　地理的拡大に関するアップデート

グローバル市場への展開：英国

- 2022年10月より、一部地域（Greater London）で販売開始
  - ✓ リフィルは9種類（Flavor on demand は3種類）
  - ✓ 新たなオンライン・プラットフォーム
  - ✓ 主要な小売りチェーン、たばこ販売店で取り扱いを開始

地理的拡大に関するアップデート

- 需給逼迫緩和に伴い、2023年上半期までに必要な半導体の調達を担保
- 2023年以降も積極的にグローバル市場での展開を予定

© Copyright JT 2022

本スライドは、JTグループの事業活動を説明するためのものであり、当社グループの製品について、消費者への販売促進もしくは使用を促す目的のものではありません。

たばこ事業：Altriaとの合弁事業及び長期戦略的なグローバルパートナーシップについて

- HTSのデバイスであるPloomとAltria Group, Inc.グループ（以下、Altria 社）におけるHTSのたばこスティックであるMarlboroを活用し、米国においてHTS製品を商業化することを目的とし、Altria 社と米国に合弁会社を設立することについて合意。

  また、RRPの更なる事業機会を探求するため、長期にわたる戦略的なグローバル・パートナーシップについても合意。

- HTSカテゴリの強化を図る事業戦略の一環。RRPにおける更なる事業機会をグローバルに探求することに繋がると考えており、両グループにおける喫煙に伴う健康リスク低減に向けた取り組みの進展や企業価値の向上に寄与するものと確信

- RRPに関する科学的知見や法規制に関する情報を共有し、米国食品医薬品局に対して、2025年度上期を目途にPloomの最新バージョンの販売前申請（PMTA）を提出予定

© Copyright JT 2022

医薬事業・加工食品事業：財務実績

医薬事業

(億円)	2022年 1-9月	前年同期比
売上収益	**597**	+5.1%
調整後営業利益	**73**	+10.0%

- **売上収益:** 鳥居薬品において、皮膚疾患領域ではアトピー性皮膚炎治療薬「コレクチム®軟膏」、アレルゲン領域では「シダキュア®スギ花粉舌下錠」「ミティキュア®ダニ舌下錠」の売上が伸長し、前年同期比で増収
- **調整後営業利益:** 鳥居薬品の増収により、前年同期比で増益

加工食品事業

(億円)	2022年 1-9月	前年同期比
売上収益	**1,128**	+5.8%
調整後営業利益	**19**	▲21.2%

- **売上収益:** 冷食・常温事業における価格改定を主因に前年同期比で増収
- **調整後営業利益:** 原材料費等の一層の高騰やネガティブな為替影響を価格改定で相殺に至らず、前年同期比で減益

© Copyright JT 2022

2022年度 修正見込

ロシア市場における現況と修正見込への影響

ロシア市場における事業概況

- ロシア・ウクライナ情勢が長期化、複雑化する中、国内外におけるあらゆる制裁措置を順守した上で、事業運営を継続
- 引き続き、経営理念である4Sモデルに則り、必要な意思決定を行っていくことにより、この難局に対処していく

財務影響及び修正見込への影響

- 2022年12月期修正連結業績見込において、当社グループ全体の売上収益及び調整後営業利益にロシア市場が占める割合はそれぞれ約11%、約21%
- センシティビティガイダンス
  - RUBが円に対して前提レートから1%変動する場合、調整後営業利益（修正後）に対して通年で20億円強の影響が生じる見込*

    *RUB以外の主要通貨の為替感応度は次の通り：各通貨に対して前提レートから1%円安方向に変動する場合、修正後の調整後営業利益への影響はGBP＋10億円強/ TWD 約+10億円/ PHP 約+10億円/ EUR 約+10億円/ CHF 約-5億円

© Copyright JT 2022

全社業績： 2022年度修正見込

（億円）	2022年 今回見込	対前回見込 増減	前年度比
財務報告ベース			
売上収益	**26,680**	+1,820	+14.8%
調整後営業利益	**7,280**	+1,030	+19.3%
営業利益	**6,490**	+1,000	+30.1%
当期利益	**4,450**	+830	+31.5%
FCF	**4,650**	+770	▲170億円

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。
為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

為替一定core revenue：対前回見込＋2.5%、前年度比＋3.3%

- たばこ事業における数量アップサイドの発現、追加プライシング効果を主因に、上方修正

為替一定調整後営業利益：対前回見込+9.3%、前年度比+8.1%

- 上記のたばこ事業におけるトップライン伸長が、サプライチェーンにおけるコスト上昇影響を上回ると見込み、上方修正

売上収益・調整後営業利益（財務報告ベース）

- 一層の円安進行を受けて前回見込より大幅に上方修正

営業利益・当期利益

- 営業利益：調整後営業利益の上方修正に伴い、上方修正
- 当期利益：金融損益の悪化を見込むものの、営業利益の上方修正、実効税率の低下を織り込み、上方修正

FCF

- 調整後営業利益の上方修正及び設備投資の減少に伴い、前回見込より770億円の上方修正

© Copyright JT 2022

たばこ事業： 2022年度修正見込

数量前提

	2022年 今回見込	2022年 前回見込
総販売数量	**前年度比 ▲2%程度の減少**	前年度比 ▲3%程度の減少

財務見込

（億円）	2022年 今回見込	対前回見込 増減	前年度比
自社たばこ製品売上収益	**23,300**	+1,820	+16.4%
調整後営業利益	**7,580**	+1,030	+18.6%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。
為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

数量前提

- 上方修正：複数市場において総需要・モメンタムが強かったこと、持続的なシェア伸張を反映

財務見込（為替一定ベース）

自社たばこ製品売上収益：対前回見込＋2.9%

- 数量アップサイドの発現、追加プライシング効果を主因に、上方修正

調整後営業利益：対前回見込＋8.8%

- 上記のトップライン伸長が、サプライチェーンにおけるコスト上昇影響を上回ると見込み、上方修正

財務見込（財務報告ベース）

自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益

- 一層の円安進行を受けて前回見込より大幅に上方修正

© Copyright JT 2022

医薬事業・加工食品事業： 2022年度修正見込

医薬事業

（億円）	2022年 今回見込	対前回見込 増減	前年度比
売上収益	**835**	+10	+3.9%
調整後営業利益	**110**	+10	▲0.8%

- **売上収益：対前回見込＋1.2%**
- **調整後営業利益：対前回見込＋10.0%**
  海外ロイヤリティ収入の上振れ（円安影響含む）を織り込み、売上収益・調整後営業利益とも上方修正

加工食品事業

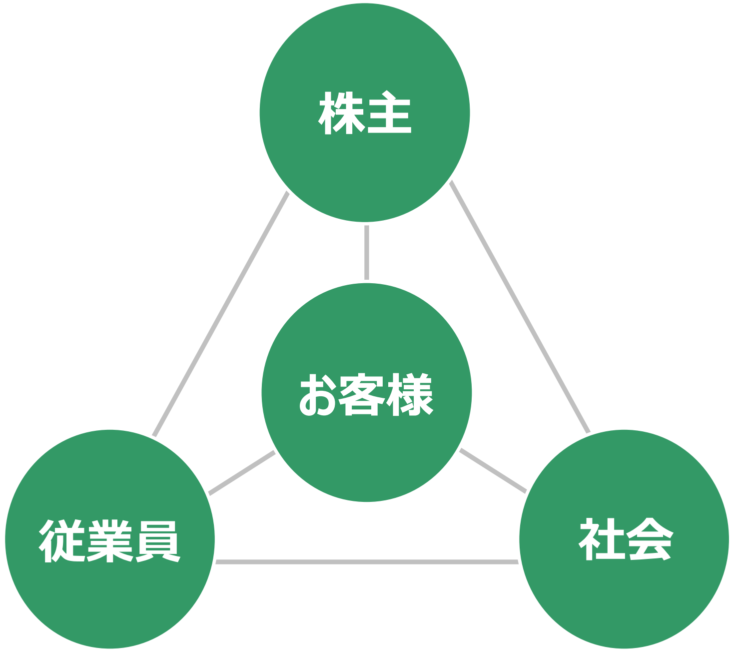
（億円）	2022年 今回見込	対前回見込 増減	前年度比
売上収益	**1,510**	▲30	+2.6%
調整後営業利益	**20**	-	▲49.4%

- **売上収益：対前回見込▲1.9%**
  ベーカリー事業の株式譲渡の影響や夏場のコロナ感染拡大による業務用商品の回復遅れ等を織り込む
- **調整後営業利益：前回見込から変更なし**
  ネガティブな為替影響の拡大を見込むも、冷食・常温事業におけるコスト低減施策の実現を織り込む

© Copyright JT 2022

終わりに

Closing Remarks



1-9月期実績

- たばこ事業におけるプライシング効果に牽引され、円安も後押しし力強い実績

2022年修正見込について

- 数量モメンタム・追加プライシング効果により上方修正
- 財務報告ベースの調整後営業利益及び当期利益は、上記に加え円安の影響により上方修正

PloomXの進捗

- 日本でのカテゴリ内シェアは伸張、HTSカテゴリ内シェアは7.9%に達する
- 10月より英国の一部エリアにて販売開始、2023年以降積極的な海外展開を実施予定

米国における合弁事業、長期にわたる戦略的グローバル・パートナーシップ合意

- HTSカテゴリに重点を置いたグローバルなRRP戦略を推進
- 喫煙に伴う健康リスク低減に向けた取り組みの進展や企業価値の向上に寄与

株主還元

- 今回の通期業績予想の上方修正を受け、株主還元方針に則り、1株当たり年間配当金予想を38円増配し、188円

© Copyright JT 2022

＜用語の定義＞

調整後営業利益（AOP）：	営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用)* *調整項目（収益及び費用) = のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定ベース：	前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
為替一定ベースcore revenue：	前年同期の現地通貨対米ドル、米ドル対円の為替レートを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益＋医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
当期利益/四半期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products (RRP)：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品。当社製品ポートフォリオにおけるheated tobacco sticks (HTS), infused-tobacco capsules (Infused), E-Vapor, 無煙たばこ製品等が含まれる
Heated tobacco sticks (HTS)：	高温加熱型の加熱式たばこ。1スティック＝RMC1本として換算
Combustibles：	製造受託／水たばこ／加熱式たばこ／無煙たばこ／E-Vaporを除く燃焼性のたばこ製品
GFB： (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド

© Copyright JT 2022

＜用語の定義＞

総販売数量：	水たばこ／製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリーを除くたばこ製品の販売数量
Combustibles販売数量：	水たばこ／E-Vapor／無煙たばこ（Snus・ニコチンパウチ）／加熱式たばこ／製造受託を除くたばこ製品の販売数量
RRP販売数量：	Reduced-Risk Products (RRP)の販売本数（RMCとして換算）。デバイス/関連アクセサリー等は含まない
自社たばこ製品売上収益：	物流事業／製造受託等を除く売上収益

© Copyright JT 2022